

【74】日本一小さな一級河川

ここでいう一級河川とは、一級水系の中心となる幹川のこととします。通常、水系名と河川名とは一致しています。利根川水系の幹川名称は利根川です。

さて、日本一長い一級河川は 367 km の信濃川で、日本一の流域面積の大きい一級河川は 16,800 平方 km の利根川です。それでは、日本一小さい一級河川というと、近年までは長崎県諫早市（いさはやし）にある本明川（ほんみょうがわ）でした。

当時、本明川の長さは 21 km、流域面積は 87 平方 km といずれも 109 を数える一級水系のうちで一番小さく、しかも流域のすべてが諫早市内に収まっているという小河川です。

これにはワケがあります。

昭和 32 年 7 月（1957）に北九州地域を襲った梅雨末期の、総雨量 800mm に及ぶ「諫早豪雨」により本明川が大氾濫を起し、当時の人口 7 万人の小都市で死者行方不明者 500 人以上、家屋全半壊 1300 戸、浸水家屋 3400 戸の大被害を生じ、市は壊滅状態になりました。そのため災害復旧や改修工事は、国の直轄事業として進められ、新河川法制定後の昭和 43 年（1968）に一級河川に指定され、今日に到っています。

本明川の大変革は、平成 19 年（2007）に農林水産省の諫早干拓事業が竣工したことにより、本明川の河口沖合に湾口の締切堤が設けられて堤の内側（干拓地側）に広い淡水域が生じ、本明川の洪水は締切堤の排水門を通して海へ放流されるので、本明川の長さは従来の河口から排水門まで長くなりました。

また、締切堤の内側の水域に流入する多くの小河川や水路も本明川の流域に算入され、流域面積も増加しました。結果として、本明川の長さは 28 km、流域面積は 249 平方 km に増え、長さは静岡県の菊川（28 km）と同じとなり、どうやら日本一短い一級河川の座は菊川と並んだようです。流域面積は最下位から 5 番目に“出世”しました。

流域面積最小の一級河川は、四国は香川県の土器川（どきがわ）の 127 平方 km です。

以上まとめて、日本一短い一級河川は本明川と菊川、日本一流域面積の小さい一級河川は土器川ということになります。